
鼠

らからる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鼠

【コード】

N3340N

【作者名】

らからる

【あらすじ】

とある男が学生の頃に不思議な鼠と遭遇した話。

（前書き）

初めて何かに公開する小説です。読んだ人が楽しい一時を過ごせた
ら幸いです。

その昔、私が学生の頃に住んでいたアパートは、その当時でも化石のような、古い木造二階建てのアパートだった。

近くの道路を通ったトラックが、その道路のわずかな窪みで跳ねただけで、アパートが揺れる。引越してきた当初はその揺れを地震と勘違いしてしまった。

しかし、六畳一間のそんな環境でも、雨風はしのげるし、実家が貧乏だから仕方がないと諦めている。むしろ文句など言うと、金がないのを無理して私の行きたい大学にやってくれている両親に申し訳ない。

そう思っただけで必死に勉強し、今では小さいながらも会社を立ち上げ、経営が軌道に乗って収入が増え、両親に実家のリフォームをプレゼントするまでになった。

極めて普通の人生だ、とは言わないが、全て私を支えてくれた人々と、私自身の努力の賜物で、何も不思議なことはないと思っている。

3

そんな私が今までの人生で唯一、どうしても理解できない不思議な体験をしたのがこのアパートだった。

それは引越してきてから初めての年末。大掃除をしていた時のことだ。

掃除の基本は上から下へ。私はまず、天井から年中ぶら下がっている四角い蛍光灯カバーを綺麗にしてやろうと思った。ずっとほったらかしだから、きつとおぞましいほど埃が積もっているに違いない。雑巾を手に椅子を台にして、普段は見えない蛍光灯カバーの裏側を覗く。しかし初めて覗いた蛍光灯の裏の世界は、私の想像とは違った。

結果から言うと、そこに埃は一切無かった。

その代わりに、一匹の鼠が住んでいた。

私達が普段、人間に対して使う『住んでいる』と同じように、鼠はそこに居た。シルバニアファミリーをご存知なら、それを思い浮かべて頂くと話は早い。

その鼠はお人形遊びで使うミニチュアの家具を使って生活しているようだった。

鼠はミニチュアの椅子に座り、ミニチュアのテーブルの前でまるで人間のようにティーカップで茶を飲んでいた。

私は刹那に、私の経験と記憶から導き出されるこの世界の法則の全てを、蛍光灯の裏に住む小さな住人に当てはめようとした。しかし、当てはまらなかった。

さらにその鼠は私に気付き、「やあ、初めまして。お茶でもいかが？」と喋った。

だから恐怖の余り私は叫んだ。

それは濁点のついた「あ」を、ゲシュタルト崩壊を起こすほど長く続けたような叫び声だった。

鼠はビクツと身を縮める。

隣の部屋の売れない画家が、薄い壁越しに「うるせえ！殺すぞ！」と怒鳴ってきたので叫ぶのをやめた。

私が叫ぶのをやめると鼠は「まあ落ち着いてください。気持ちばかりですよ、誰だって日常的に理解不能な出来事に遭遇すれば不安になるものです。ですが逆に言えばあなた方人間は」「うるせえ」鼠に向かって強力なデコピンをお見舞いした。

鼠が蛍光灯カバーの上から、放物線を描いて飛んでゆくのを確認したところで私の意識は途切れた。

目を覚ますと、私は大の字に寝ていた。台代わりに使った椅子が倒れている。

どうやらバランスを崩して気絶してしまっただけらしい。

「なんだ、夢だったのか」

独り言を呟いた時、わずかに部屋の扉が開いているのに気が付いた。扉を閉めようと立ち上がったその時、唐草模様の風呂敷に荷物をまとめた小さな鼠が、まるで人間のように抜き足指し足で扉へ近付いていた。

咄然とその様子を見ていた私に気付いた鼠は、慌ててその扉から出ていった。

私はすぐさま扉を開いて狭い廊下を見てみたが、誰かが捨てた紙屑が落ちていただけで、後は人の気配すらなかった。

これだけの出来事であるが、それから年を重ねた今日、あの鼠を見た時のように私は年末の大掃除をしていた。今では愛する家族も一緒である。

掃除の基本は上から下へ。

私は毎年のように鼠のことを思い出しながら、また彼が現れないかと期待して、一年の埃が積もった、居間の蛍光灯カバーを吹くために、椅子を台にしてカバーの上を覗く。

そして今年も同じように、蛍光灯カバーから掃除する。

「やあ、久しぶりだね」

十五年ぶりの再会だった。

(後書き)

如何でしたでしょうか？

よろしければ感想ください。勿論、未熟者なので批判は甘んじて受け付けます。って言うか批判大募集です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3340n/>

鼠

2010年10月20日15時44分発行